

自然池1年後の観察とこれからを考える

植田 隆夫

赤塚のコンクリート池が自然池として生まれ変わり、約1年が過ぎました。5月21日(土)に(財)日本生態系保護協会の船橋さんを招き、自然池を維持していくための観察会と勉強会がありました。

この池は平成11年3月に赤塚溜池公園自然回復検討会が中心となり、市民の参加で、湧水を利用して作った自然池です。この自然池は人の手を加えることなく、自然の力で植物や水生昆虫などが育つようにした昔ながらの池を考えて作りました。このため、通常は人が池に入ることができないように、池の周りに柵を作りました。

自然池ができて約1年過ぎてどのように変わったかを観察し、船橋さんの話を聞きました。トウキョウダルマガエルを見つけました。昔からこのあたりにいたカエルですが、水面を泳いでいるので、ウシガエルに食べられて数が少なくなっている種類です。自然に来たのではなく、誰かが放したのでしょうか。

ウシガエルも見つけました。食用ガエルといわれていて、大きくなると10cm位になります。5月頃から8月末まで卵をたくさん産み続け、どんどん増え、大きな口でなんでもひと飲みにし、ザリガニやカエルもえさとするので、小さな生き物にとっては脅威です。オタマジャクシも大きく、そのまま冬を越します。

アメリカザリガニが石の下にいました。ザリガニはウシガエルのえさとして日本に持ち込まれました。大きいものから小さいものまでいて、今年生まれた小さいザリガニは水底で無数に動き回っています。

ブラックバスとは違う黒い魚が泳ぐ姿が見られました。カメも池の真ん中でゆっくり泳いでいました。魚やカメも誰かが放したのでしょうか。

以前は絵本などでは、水槽で飼っていた生き物が大きくなって育てられなくなったら、自然に帰すように話していました。最近では生態系を考えて、飼っている生き物は責任を持って最後まで飼わなければいけません。飼っている生き物を自然へ放すことによって、その地域の自然と土地にもとからいた生き物の生態のバランスが崩れてしまうからです。その土地の固有の生き物が絶滅してしまう恐れがあるからです。

次に、自然池に流れ込んでいる水路を観察しました。

ここにもアメリカザリガニが棲みついでおり、水路脇の土手に穴があいていました。穴があいてしまうと、そこから水が漏れて自然池へ流れる水が減ってしまいます。また、落ち葉が水路の中にたまって、水の流れが悪くなっていました。

自然池の観察を終えて、集会所にて、生態系と自然池の維持について話を聞きました。

生態系の話の中で、ホタルの話がありました。最近、ホタルを観賞するイベントが各地で行われています。その土地にいたホタルが少なくなったからといって、他からホタルを移して放すと、ホタルの生態はどうなるのでしょうか？ 例えば、東北のホタルは点滅する間隔が約4秒で、関西のホタルでは約2秒だそうです。そこで、東京に東北と関西のホタルを一緒に放したらどうなるのでしょうか？ このホタルが棲みついで、数年後には3秒の点滅になるのでしょうか？ その土地にいた固有のホタルは将来にかけて全滅する恐れがあります。

動植物を移す時は、生態を考えて行う必要があります。

これから先、自然池を維持していくために指導を受けました。

○自然を維持することの意味を掲示板や観察会などで行い、多くの人に知ってもらうようにすることです。

○自然池には小さい生き物が隠れ家となる水草を植えるのも一つの方法です。

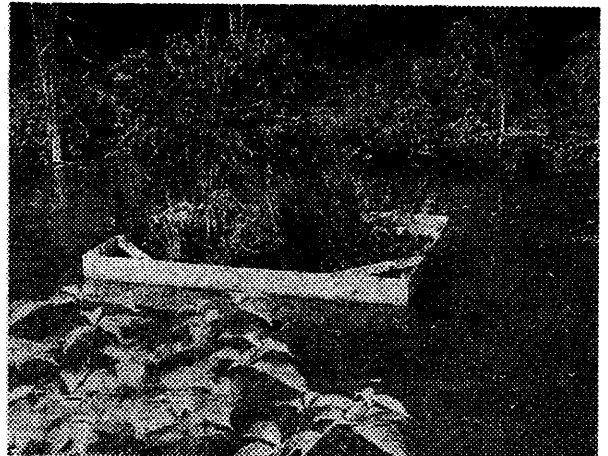
ただし、日本のものであればなんでもよいというのではなく、昔からこの地域にある池や荒川にある水草がよいでしょう。

○水辺に生き物が棲んでいるため、水路の中にたまっている落ち葉は取り除くのではなく、脇に寄せておきます。

○ザリガニは定期的に捕獲するしかありません。

苦肉のザリガニ対策 その1

水草の芽がザリガニに食べられて育たない！
セリなどの水草はひたすら陸に向かって茎を伸ばし茂っています。水中の草はほとんど消失。
あるのは植木鉢で保護された水草のみ。
苦肉の策として、水草の箱舟をつくりました。
底もネット張りでザリガニは侵入できません。
はたしてトンボのヤゴが育つか・・・



この情報化社会の世の中で、人はすぐに結果を出したがりますが、自然池ができてまだ1年です。自然池を維持していくためには、普及活動を行い、ゆっくり時間をかけてつきあっていかなければならないのではないのでしょうか？ 長い目で自然な池の成長を見守ってほしいと思いました。

荒川笹目橋緑地に「ここは大規模自然地ゾーンです」

の看板がたった

荒川笹目橋緑地は、荒川将来像計画のなかで大規模自然地として位置づけられていますが、ほとんどが戸田市域にあたるため、具体的な自然地整備の計画が立っておらず、もっぱら野球場やゴルフの練習に利用されています。そして利用者によりグラウンド用に草刈りがされています。

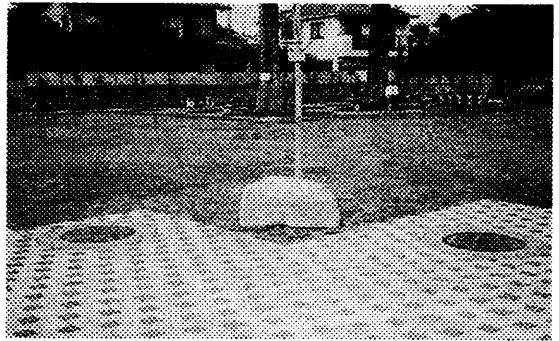
いたばし水と緑の会では、この場所が自然地予定地であることを利用者に理解してほしい、また、草刈りの範囲も回数も最小限にしてほしいと思っています。そんなわけで、河川環境管理財団の助成金により看板を設置しました。江戸さんの絵と釣巻さんの写真が、河川敷の自然の魅力をアピールしています。



くできた人工的なこの『けやきの公園』に、命を感じることができますか？ 自分たちの住む町について真剣に考えることを忘れてるように思います。私たち人間を含めた生き物にとっての暮らしやすい環境を、町づくりの計画の基本に据えるべきではないでしょうか。環境都市宣言を掲げた板橋はどこへ行ってしまうのか、不安が膨らむ今日この頃の私です。



公園には自然はじゃまなものなのでしょうか。自然を残してほしいと思う人は少数なのでしょうか。虫や雑草を排除せよという声は大きく、自然を愛する人は声が小さいだけなのでしょうか。身近な公園の自然についてみなさんの投稿をお待ちしています（編集部）。



板橋のミツバチ（4）

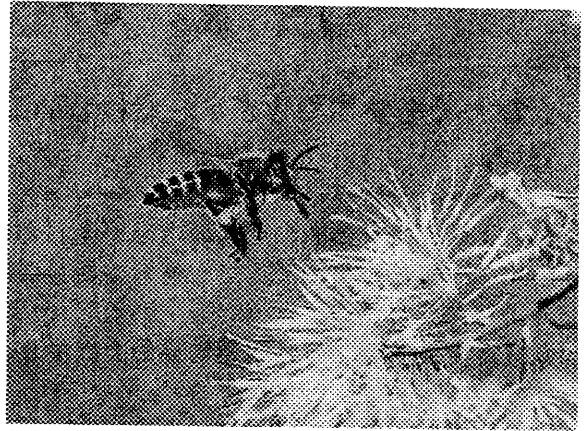
他の生物と共に生活する空間

干場 英弘

わたしの家の近くにあったトウネズミモチの立派な木がごく最近バツサリと切られた。この花には多くの昆虫が訪れるので「虫が多くて困る」とか「花が地面に落ちて汚い」などの苦情が出たらしい。写真6は空き地の雑草として普通に見られるタケニグサを訪れているニホンミツバチである。この花には花粉を求めて多くの昆虫が集る。私はこの花が大好きなのだが“雑草”と言う身分であるため、今日にも切り取られる運命にある。「こんなに幸せそうに飛んでいるのに！」と嘆いている。

通勤途中の道端には雑草が元気に生えている。よく見ると綺麗な花をつけているものもあり、そこにも様々な昆虫がいて、小さな空間ではあるが都会の中の生態系が出来ている。「多くの生物が住める場所だからこそ人間も住める」と実感し、都会の「コンクリートジャングル」の中で心が休まることさえある。しかし、これらもやがて写真7のごとく「雑草だから」と言う理由で引

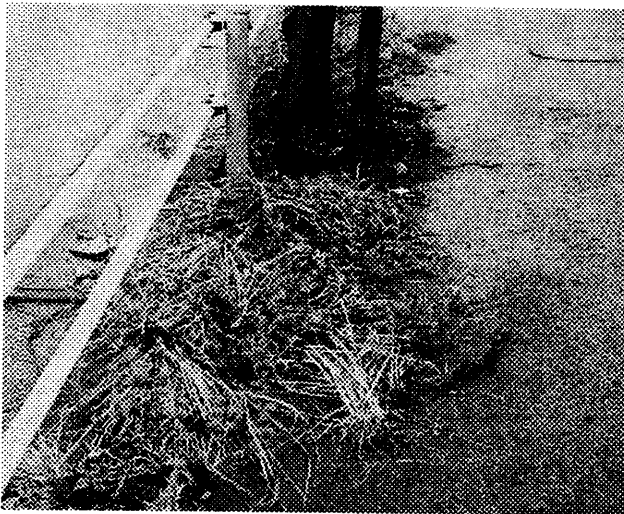
き抜かれ、時には除草剤で醜く枯れてしまう。そこに放置され、腐っていく状況とその前の写真を並べて見せると、ほとんどの人は「雑草があるほうがきれいだ」と言う。雑草を含めた他の生物の共存を認めない環境は、かつてカーソン(1962)が書いた「沈黙の春」の序章「・・・りんごの花は咲きそろったのに、ハチの羽音はしなかった。・・・」など、農薬によって引き起こされた死の世界を思い起こさせる。



“持続可能”な雑草刈を！

様々な分野で地球環境問題が論議されスローガンも出されているが、1972年スウェーデンでの国連人間環境会議で叫ばれたThink globally, act locally (地球規模で考え、足元から行動する) や、その20年後の1992年ブラジルのリオデジャネイロにおける地球サミットでのsustainable development (持続可能な開発) がその代表であろう。

我々の「足元からの行動」はゴミ・リサイクル問題、エネルギー問題などいろいろ叫ばれて、実践もされているが、「他の生物と共に生活をする意識と実践」を提案したい。「多少の昆虫ならば共に生活できる環境のほうが安全」と考え、雑草刈りに関しても他の生物が共存できる(他の生物を持続できる) sustainableな草刈を提案したい。例えば空き地に生えている草は半分ずつ刈る、根元から刈り取るのではなく、少し残しておくなどの工夫をしたいものである。秋、カンタンなど優雅に鳴く虫が出揃った頃、「そろそろ“虫の音を楽しむ会”でも・・・」と思う矢先に空き地の雑草が根こそぎ刈り取られ、草刈機の音と同時にそこに住めなくなったおびたしい数のコオロギ、カンタンなどがアスファルトに飛び出し、その後美しい虫の音が途絶えと言った



“土地管理”に心を痛めている。

板橋区には他に例を見ない「ホタル飼育施設」があり大変な成果をあげているが、そこではホタル以外にも多くの生物が共存して生態系をつくっている。この施設の環境を見本として、我々の足元からの意識と行動で、心がなごむ豊かな都会の環境を模索したいものである。《おわり》

活動のお知らせ

どなたでも参加できます。くわしいことはそれぞれの連絡先にお問い合わせ下さい。

運営委員会は具体的な活動の内容を話し合い、決定する場です。従来の定例会はなくなりますが、運営委員でなくても運営委員会に参加し、どしどし意見を言ってください(役割分担もよろしく)。

8月運営委員会 8月の運営委員会は中止。臨時総会になります。くわしくは1ページをごらん下さい。

9月運営委員会 9月1日(金)18:00～20:00 場所:エコポリスセンター3階会議室

9月会報印刷・発送 9月14日(木)17:30～ 場所:エコポリスセンター会議室

●赤塚自然池生き物の環境づくり

日時:7月29日(土)10:00～12:00

場所:美術館前

内容:観察、水漏れ補修、草刈り、浮島づくり(その2)

連絡先:植田(3958)9209

または大西(3938)3106

●城址草原の鳴く虫の観察会

日時:9月9日(土)16:00～18:00

場所:美術館前(遅れてきた人は直接城址の草原へ)

連絡先:釣巻(3961)2875

●竹を使って

日時:9月2日(土)13:30～16:00

場所:美術館前(遅れた人は竹林前)

内容:区民まつりで一輪挿しなどの製品をつくって売ろうということに。

持ち物:ノコギリ、小刀、軍手

連絡先:猪鼻(3933)8269

●自然発見ウォーキング世話人募集

自然発見ウォーキングは11月18日(土)を予定しています。準備と当日のお手伝いが出来る人はご連絡下さい。

連絡先:坂本(3579)2598(勤)

●身近なビオトープの植物を一緒に調べませんか

連絡先:坂本(3579)2598(勤)

●散歩観察会

日時:9月9日(土)13:30～15:30

集合:美術館前

持ち物:双眼鏡、図鑑など

内容:自然発見ウォーキングの下見も兼ねて、赤塚の自然を探します。その後4時から鳴く虫の観察会も。

連絡先:坂本(3579)2598(勤)

●昆虫調査世話人募集

連絡先:釣巻(3961)2875

●ザリガニ退治

赤塚の自然池がザリガニ釣りで賑わっています。会として自然の維持のために駆除します。

日時:9月2日(土)10時～12時

集合:美術館前

連絡先:滝川(3934)3421

編集後記 今回は文字数が少ない、ゆったりとレイアウトしよう。結果は…私が書くスペースが無くなった、有難い。次号に徳丸たんぼの思い出などを、と考えています。皆さんにも板橋周辺の自然、遊び、暮らしなどの思い出を書いていただけたら、と願っています。50年前でも10年前でも構いません。

レイアウトの都合上、文章の順序の並び替え、改行の追加などが生じました、お許しの程を。

(つりまき記)